

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472400136		
法人名	有限会社 きらく苑		
事業所名	グループホーム きらく苑(すずらん)		
所在地	大分県 大分市大字馬場287番地		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

きらく苑では、利用者本位とチームワークをモットーに、「そのひとらしく生きる姿」を大切にした支援を日々行っています。利用者様との関わりに重点をおき、お一人お一人にあった役割をもって頂く事、教えて頂く事、自己決定をしていただける環境を作る事、歳を重ねても生きがいややりがいを感じていただけるよう努めています。コロナ渦ではあるが、外出支援にも力をいれており、地域との関わりや交流を通し、拓かれた施設づくり、利用者本位が溢れた福祉世界の構築を目指しています。また、職員研修にも力を入れ、福祉の仕事の喜びを感じてもらえるよう、チームワークを大切に組織づくりを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者本位をモットーに、その人らしさを追求しながら、一人ひとりにあった役割を持ってもらい、生きがいややりがいのある環境を整えている。
- ・ケアは全職員で話し合い方向性を共有し、チームワークで取り組み支援している。
- ・コロナ禍でも、工夫しながら外出支援や面会を受け入れ、人や地域との繋がりを大切にしている。
- ・人材育成に力を入れている。資格取得を奨励し、外部、内部研修に積極的に取り組んでいる。今年度は内部研修に力を入れ、職員が交代で担当し、研修内容を提示。職員のスキルアップに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時、と月に2回の会議時に皆で理念を復唱している。事務所内に掲げており、常に理念にそって仕事を遂行できるように意識している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作り、全職員で「その人らしさを追求する」「利用者本位」等を意識し実践に繋げている。また、新人研修で時間をかけて具体的に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩をしたり、近所のお店に歩いて行っている。また、自治会長宅・民生委員さん宅に向く機会を持つなど、かかわりを大切にしている。	コロナ禍で地域の行事や交流、ボランティアの訪問等が中止になる中、職員と一緒に散歩や近所の店へ買い物に出かけたり、自治会長や民生委員宅等に向くなど地域の人と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の障害者施設の方たちが作る、パンを週1回施設に来て頂き、購入している。障害のある方に認知症の方に接していただいたり、私たちが接する姿をみていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦であるため、会議内容をまとめたものを郵送している。利用者様がどの様な所に外出すると喜ばれるのかを質問している。	コロナ禍のため、運営推進委員の方に事業所の取り組み状況等の資料を郵送し、意見や提案をもらっている。出された意見等は職員で検討しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大分市の長寿福祉課へ分からない事や、訪ねたい事を良く連絡し連携をとり、ケアサービスへ活かしている。	市担当者や地域包括支援センターの職員には事業所の取り組み状況等を積極的に伝え、アドバイスをもらっている。日頃から分からない事や疑問があれば相談をしている。情報提供もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間以外は施錠せず、出たい時に外に出られる様に徹底している。施設内研修や会議を通じ、職員全員が統一の理解ができるよう身体拘束やその他の拘束についても学んでいる。	定期的に内部研修を行い身体拘束をしないケアを理解し、利用者のそばを離れる時は誰かがサポートに入ったり、出たい時は出られるように職員全員が共通の理解のもと、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、虐待防止につとめている。入浴時や更衣をして頂く際にも身体の観察を行い、ご本人様や職員にも聞き取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	希望する職員には、成年後見人の研修に参加し学ぶ機会を作っている。身寄りのない方や要望がある場合には、利用者様、ご家族にも制度の説明をさせて頂き活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をもって説明ささえていただき、必ず不明な点がないか確認を行っている。必ず理解・納得されたうえで、契約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族に運営推進会議に参加していただき、意見や要望をいただいている。朝礼や会議を通し職員にも周知徹底を図っている。	運営推進会議や毎月の利用料支払日、面会時に意見要望を聞く機会を設け、本人・家族から聞いている。出された意見等は職員で共有し、サービス向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回は全体会議を行い、必ず、参加してもらい、意見を出し合い、職員全員で同じ方向を向いてケアに臨むようにしている。必ず、モニタリングを行い、忠実に遂行できているか、確認をとっている。	月に2回会議の中で意見を聞く機会を設けている。ケアについては、職員全員で意見を出し合い、出された意見は、全職員で共有し反映させている。また年2回個人面談で要望等を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の面談を行い、その中で目標をたて、仕事へのやりがいを持ってもらえるように働きかけを行っている。研修費用や資格習得費用は事業所で負担し、スキルアップや向上心をもち業務につけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は入社日から4日間の研修期間を設けてある。職員研修は、外部の研修はもちろん、外部の講師をお願いしたり、施設内研修にも取り組んでいる。一人ひとりの力量を把握すること、チームの力をレベルアップさせる事を常に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に訪問したり、情報交換をしたり、日常的に交流する機会を作っている。また、外部研修に参加し、同業者とも意見交換をする機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、きらく苑に見学に来て頂いている。またご自宅や、病院等へ何度かお伺いし、顔みしりになって頂く事から始める。安心して入所へ踏み込める様に今までの生活環境や、生活習慣をお聞きし、なるべく今までの生活が継続してできるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での過ごし方や、ご家庭の状況を考慮し、ご家族とも一緒にその方の事を考え、信頼関係を大切にしている。アセスメント表も使用し、要望が言いやすい関係を築く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずご家族、ご本人との面談を行い、必要な支援の見極めをしている。介護保険の他のサービスの説明や他施設の見学もお勧めし、体験入所を活用して頂いたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる事は一緒に行い、役割を持って頂き、職員は必ず感謝をお伝えしています。また、人生の先輩として色々な場面で教えて頂く事を大切にし、利用者様から教わった事(調理等)を活動に入れております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様へ生活のご様子をお伝えしたり、ご家族様への協力をお願いしている。一時帰宅やお墓参りなども行って頂き、ご家族との関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行っていたり、近くのスーパーに買い物へ出かけたりしている。定期的に自宅に帰り知人や近所の方と交流をもっているように支援している。苑にも面会にきていただき、関係が途切れないようにしている。	馴染みの美容院や近所のスーパーに買い物に出かけたり、定期的に自宅に帰っている人もいる。面会も受け入れており、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席やフロアなど移動していただき、気の合う方と一緒に過ごせるようにしている。利用者様同士で口論される場面では、職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、ご本人様の転居先に訪問するなど、関係性を大切にしている。また、ご家族様にも退所後も連絡を行い、苑のイベントごとに参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月会議を行い、利用者様の状態や思いなど職員全体で共有し、ご本人様の希望に添えるようしている。困難な方に対しては、ご本人様の表情からくみ取ったり、ご家族様から生活例歴などを聞き、意思の疎通が困難になってもその人らしく生活していただけるように支援している。	日々の会話から本人の思いや意向の把握に努めている。困難な方は行動や表情からくみ取ったり、家族からこれまでの暮らし方や意向を聞き、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には必ず、ご本人様、ご家族様に面談を行ってアセスメントを行っている。情報は職員全体で把握しこれまでの生活ができる限り継続してできるように努めている。新しい情報は個人ファイルに追加し、常に職員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝礼や、夜勤者にも申し送りを行い、日々利用者様の心身の状態の把握に努めている。その中でお一人お一人に役割を持って頂き、苑での生活の中で生きがいを感じていただけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者も業務に入り、利用者様と過ごす事でお一人お一人のケアプランを作成している。ご本人様や、ご家族様にも意向をお伺いしケアプランに反映させている。会議で職員全体でも話し合いを行い、計画をたてている。	本人・家族の意向を聞き、職員で話し合い現状に即した介護計画を作成している。今までの生活が継続できるように好きなことや楽しいと思えることをプランに組み込んでいる。毎月モニタリングし、状況の変化に伴い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フェイスシートや日々の記録を個別的にし、いつでも職員が見る事のできる様にしている。また、ご家族様より記録の観覧を要望された場合も観覧して頂く。月に2回全体会議を行い、日々の様子や、実践、結果気づきや工夫を皆で話し合う機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療の連携はもちろん、利用者様お一人お一人の望む生活を送って頂くため、行きたいところに職員も一緒に行ったり等、可能な限り、利用者様に寄り添う様に取り組んでいる。他施設との交流も積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが流行する前は、運営推進会議等で民生委員の方や、老人会会長の方に地域のお祭りや、イベント、サロン活動をお聞きし参加したり、地域のスーパー、八百屋、美容院、に日々の生活の中で出向き、地域の方と一緒に利用者様を支援している。ボランティアの方にも来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望する病院の受診をしています。かかりつけ医には日頃より利用者様の状況報告を行い、信頼関係を気づきながら、関係性を作っており、適切な医療が受けられるように支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医に継続して受診している。事業所が通院支援をしており、日頃より 利用者の状況報告をし、かかりつけ医との関係性を築き、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤勤務で来られ、看護師が不在の日は日中、夜間とも電話対応もしている。いつでも相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、地域での介護の研修や、病院での研修に出向き、医師、ソーシャルワーカー、看護師の方と、相談や連携、情報交換ができる様にしている。かかりつけ医との連携もとれている。そのため入退院がスムーズにできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と重症化や終末期にご家族やご本人のご意向を確認している。延命治療を受ける、受けないうしろ、ご家族、かかりつけ医と密に連絡をとり、本人はもちろん、ご家族の心にも寄り添いながら、話し合っていく。医療面でもかかりつけ医に相談し、最後までその人らしく生きられるように支援していく。	入所時に重度化や終末期のあり方について、事業所でできることを説明し、本人・家族の意向を聞いている。状態の変化に応じてその都度、家族、かかりつけ医と話し合い、方針を共有し支援している。かかりつけ医との協力関係が築けており、看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作り、施設内研修をする。外部研修にも参加させて頂き、かかりつけ医の携帯番号を教えて頂いているので、いつでも相談できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備点検業者とスプリンクラー等の点検、通報、避難訓練、消火訓練を業者、職員、利用者と一緒にしている(年2回)。非常食や石油ストーブ、発電機、等も準備している。きらく苑は馬場地区でも海拔14mですが、地域住民の方も避難できるように、防災グッズや水を多めに備蓄してある。	年2回の避難訓練を実施。津波の時の避難場所になっている。定期的に消防設備の点検を行っている。備品や備蓄品を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室になっており、利用者様のプライバシーを守っている。職員は必ず、名前をさんずけで呼び、あだ名では呼ばない。必ず丁寧語を使用するところから研修を行っている。一人ひとりに人格や人としての尊重をする事を方針としている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な言葉かけ、傾聴するなど一人ひとりに寄り添った対応をしている。人格を尊重することを方針とし、会議や研修で振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のおやつはドリンクメニューからその方を選んでもらい、提供している。また、入浴や、起床の時間もきらく苑では作らず、行きたい場所や、やりたい事をして頂き、少しでも自己決定ができる様にしている。その人らしく生きて頂こうと支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事、トイレ、就寝の時間は決まっておらず、お一人お一人に合わせ、またはこちらからお尋ねしたりし、生活して頂いている。外出希望がある場合は、その都度日程表に組むなどし、外出機会を持って頂けるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の衣替えは職員と一緒にいき、ご本人様の希望に合わせて、なじみの美容院などにもカットやパーマをかけに出かけている。ご自宅に衣類を取りに外出されることもある。季節ごとに衣類を買いに出かけたり、日々の買い物でもいつでも衣類や化粧品やボディクリーム等買いに出かけられる環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みは会話の中でお聞きしたり、ご家族に伺って聞いている。日ごろの調理を利用者様と行き、好きなものを食べて頂いている。朝食はご飯かパンか選んで頂けるようにしている。	朝食のパンかご飯の選択制や誕生日にリクエスト食が食べられる楽しみを取り入れたり、日常の食事の準備や片づけを職員と利用者が一緒にしている。また、おやつ作りでは利用者の力を活かせる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録に食事量や水分量を記入し、職員が把握できるようにしている。食事量や水分量が少ない方には、栄養補助食品や水分ゼリー等摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日三回毎食後に口腔ケアを行い、できる方はご自身で、出来ない方は介助をさせていただいている。必要時には歯科受診も行い、口腔衛生につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、利用者様の排泄状況を把握している。日中は布パンツで過ごせる方は過ごして頂いており、必要な方には声かけを行いトイレにご案内している。	排泄パターンを把握し、本人の訴えやサインを見逃さず、見守りやさりげない声掛けでトイレ誘導している。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでいただき、午前・午後に体操を行っている。必要な方は排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めておらず、毎日入浴したい方は毎日入浴していただいている。夕食後にも入浴時間をもうけ、ご本人様の希望にあわせた入浴がおこなえるようにしている。	午後からの入浴。出来るだけ湯船に浸かりゆっくり入浴できるよう支援している。毎日入浴する人もおり、入浴表を基に声掛けし個々に沿った支援をしている。また、嫌がる時は無理強いはせず、対応に工夫しながら、週3回は入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方が眠らなくなったら眠って頂き、眠前薬もほぼ飲んでいません。寝具や枕はご自宅で使っているものを持って来て頂き、少しでも落ち着ける雰囲気作りを行っています。また、眠れない時は無理強いはせず、飲み物を飲んで頂いたり、落ち着ける環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新薬や薬の変更があった場合は必ず引継ぎノートと朝礼にて、職員全員に周知してもらっています。お一人お一人の服薬内容は把握できるように、事務所に薬と一緒に保管し、いつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを活用し、家事を通して利用者様に役割を持って頂いている。利用者様個人個人で嗜好品も購入して頂くなどの支援も行っている。また、毎日の買い物や外食や温泉等、外出も高いQOLの向上を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より外に行きたいと申される方はその場その場に対応している。ご自分で言えない方はこちらから提案させていただいたり、ご家族に尋ねたりし、思い出がある場所や、ご自宅、お友達の家に遊びに行ったりするように支援している。ボーリングなど、車椅子の方でも行ける様、お店の方に協力して頂き、外出できるようにしている。	散歩や事業所の庭での外気浴を楽しんだり、コロナ禍で外出が難しい中、自宅訪問やドライブスルーの店舗や人がいないことを確認しコインランドリーへ一緒に行くなど、工夫しながら外出支援に取り組んでいる。お店の協力のもと貸し切り外食をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお小遣いを管理されている方がおり、必要時に使用していただけるようにしている。また、買い物時にはお財布をお渡しし、職員の見守りで支払いをしていただいたり、個人の希望に合わせて支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯をもち、自由に大切な方との電話の時間を楽しまれている方がいる。苑の電話も希望がある場合は、自由に使用していただけるようにしている。季節の挨拶等、ご家族や知人の方に便りを書いていたき、交流が途切れないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室・フロアにはエアコンがあり、快適な温度調節を心掛けている。フロアには壁画や、写真、飾りし季節を感じていただけるようにしている。また、夜にはダウンライトにする等、落ち着いた雰囲気作りにも努めている。年末にはお餅つきも行い、楽しんでいただいている。	共用空間は季節の花や写真、作品などが飾られ、金魚の水槽があり癒しの空間になっており、台所からは食事作りの音や匂いなど五感を刺激し生活感が感じられる。また感染対策を行いながら快適に過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士、居室で一緒に過ごされ、テレビをご覧になられたり、時にはお茶を飲まれたり、和やかな時間を過ごされている。お一人で過ごされたい時には、居室にご案内し、お一人お一人の時間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望される方には居室にテレビや、植物を置かれている。めだかや金魚等飼育されている方もいる。ご家族の位牌を置かれている方もおり、ご本人様のこれまでの生活習慣を継続できるように支援している。	一人ひとりの生活習慣を大切に継続できるよう、居室内の配置にも工夫が見られ、居心地の良い空間になっている。家族の写真や似顔絵、趣味の本、金魚や植物を置いている人もおり、その人らしい部屋作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様との会話や支援をさせていただく事で、その方のできる事、したい事などを把握し、調理が好きな方には調理をしていたり、その方の望む生活に近づくように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472400136		
法人名	有限会社 きらく苑		
事業所名	グループホーム きらく苑		
所在地	大分県 大分市大字馬場287番地		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

きらく苑では、利用者本位とチームワークをモットーに、「そのひとらしく生きる姿」を大切にされた支援を日々行っています。利用者様との関わりに重点をおき、お一人お一人にあった役割をもって頂く事、教えて頂く事、自己決定をしていただける環境を作る事、歳を重ねても生きがいややりがいを感じていただけるよう努めています。コロナ渦ではあるが、外出支援にも力をいれており、地域との関わりや交流を通し、拓かれた施設づくり、利用者本位が溢れた福祉世界の構築を目指しています。また、職員研修にも力を入れ、福祉の仕事の喜びを感じてもらえるよう、チームワークを大切にされた組織づくりを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>【グループホーム きらく苑 すずらんに記載】</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時、月に2回の会議時に皆で理念を復唱し、常に理念にそって仕事を遂行できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	週に5回食材の買い物に出かけている。散歩をしたり、近所のお店に歩いて行っている。また、自治会長宅に出向く機会を持つなど、かかわりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りや行事に参加したり、日々の買い物や外出をしている。ボランティアの方にも来ていただき、認知症の方に接している姿をみていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様がどの様な所に外出すると喜ばれるのかを話し合ったり、地域の行事への参加や、きらく苑での行事にも地域の方を招待し、参加や、ボランティアに来ていただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大分市の長寿福祉課へ分からない事や、訪ねたい事を良く連絡し連携をとり、ケアサービスへ活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間以外は施錠せず、出たい時に外に出られる様に徹底している。施設内研修や会議を通じ、職員全員が統一の理解ができるよう身体拘束やその他の拘束についても学んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、虐待防止につとめている。入浴時や更衣をして頂く際にも身体の観察を行い、ご本人様や職員にも聞き取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	希望する職員には、成年後見人の研修に参加し学ぶ機会を作っている。身寄りのない方や要望がある場合には、利用者様、ご家族にも制度の説明をさせて頂き活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をもって説明ささえていただき、必ず不明な点がないか確認を行っている。必ず理解・納得されたうえで、契約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族に運営推進会議に参加していただき、意見や要望をいただいている。朝礼や会議を通し職員にも周知徹底を図っている。玄関にも意見箱を設置し、意見しやすい環境を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回は全体会議を行い、必ず、参加してもらい、意見を出し合い、職員全員で同じ方向を向いてケアに臨むようにしている。必ず、モニタリングを行い、忠実に遂行できているか、確認をとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の面談を行い、その中で目標をたて、仕事へのやりがいを持ってもらえるように働きかけを行っている。研修費用や資格習得費用は事業所で負担し、スキルアップや向上心をもち業務につけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は入社日から研修に入ってもらう。職員研修は、外部の研修はもちろん、外部の講師をお願いしたり、施設内研修にも取り組んでいる。一人ひとりの力量を把握すること、チームの力をレベルアップさせる事を常に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に訪問したり、情報交換をしたり、日常的に交流する機会を作っている。また、外部研修に参加し、同業者とも意見交換をする機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、きらく苑に見学に来て頂いている。またご自宅や、病院等へ何度かお伺いをし、顔みしりになって頂く事から始める。安心して入所へ踏み込める様に今までの生活環境や、生活習慣をお聞きし、なるべく今までの生活が継続してできるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での過ごし方や、ご家庭の状況を考慮し、ご家族とも一緒にその方の事を考え、信頼関係を大切にしている。アセスメント表も使用し、要望が言いやすい関係を築く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずご家族、ご本人との面談を行い、必要な支援の見極めをしている。介護保険の他のサービスの説明や他施設の見学もお勧めし、体験入所を活用して頂いたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる事は一緒に行い、役割を持って頂き、職員は必ず感謝をお伝えしています。また、人生の先輩として色々な場面で教えて頂く事を大切にし、利用者様から教わった事(調理等)を活動に入れております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様へ生活のご様子をお伝えしたり、ご家族様への協力をお願いしている。一時帰宅やお墓参りなども行って頂き、ご家族との関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行っていたり、近くのスーパーに買い物へ出かけたりしている。定期的に自宅に帰り知人や近所の方と交流をもっていたりするように支援している。苑にも面会にきていただき、関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席やフロアなど移動していただき、気の合う方と一緒に過ごせるようにしている。利用者様同士で口論される場面では、職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、ご本人様の転居先に訪問するなど、関係性を大切にしている。また、ご家族様にも退所後も連絡を行い、苑のイベントごとに参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月会議を行い、利用者様の状態や思いなど職員全体で共有し、ご本人様の希望に添えるようしている。困難な方に対しては、ご本人様の表情からくみ取ったり、ご家族様から生活例歴などを聞き、意思の疎通が困難になってもその人らしく生活していただけるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には必ず、ご本人様、ご家族様に面談を行ってアセスメントを行っている。情報は職員全体で把握しこれまでの生活ができる限り継続してできるように努めている。新しい情報は個人ファイルに追加し、常に職員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝礼や、夜勤者にも申し送りを行い、日々利用者様の心身の状態の把握に努めている。その中で一人一人に役割を持って頂き、苑での生活の中で生きがいを感じていただけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者も業務に入り、利用者様と過ごす事でお一人お一人のケアプランを作成している。ご本人様や、ご家族様にも意向をお伺いしケアプランに反映させている。会議で職員全体でも話し合いを行い、計画をたてている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フェイスシートや日々の記録を個別的にし、いつでも職員が見る事のできる様にしている。また、ご家族様より記録の観覧を要望された場合も観覧して頂く。月に2回全体会議を行い、日々の様子や、実践、結果気づきや工夫を皆で話し合う場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療の連携はもちろん、利用者様お一人お一人の望む生活を送って頂くため、行きたいところに職員も一緒に行ったり等、可能な限り、利用者様に寄り添う様に取り組んでいる。他施設との交流も積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で民生委員の方や、老人会会長の方に地域のお祭りや、イベント、サロン活動をお聞きし参加したり、地域のスーパー、八百屋、美容院、に日々の生活の中で出向き、地域の方と一緒に利用者様を支援している。ボランティアの方にも来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望する病院の受診をしています。かかりつけ医には日頃より利用者様の状況報告を行い、信頼関係を気づきながら、関係性を作っており、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤勤務で来られ、看護師が不在の日は日中、夜間とも電話対応もしている。いつでも相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、地域での介護の研修や、病院での研修に出向き、医師、ソーシャルワーカー、看護師の方と、相談や連携、情報交換ができる様にしている。かかりつけ医との連携もとれている。そのため入退院がスムーズにできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と重症化や終末期にご家族やご本人のご意向を確認している。延命治療を受ける、受けないうちにしろ、ご家族、かかりつけ医と密に連絡をとり、本人はもちろん、ご家族の心にも寄り添いながら、話し合っていく。医療面でもかかりつけ医に相談し、最後までその人らしく生きられるように支援していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作り、施設内研修をする。外部研修にも参加させて頂き、かかりつけ医の携帯番号を教えて頂いているので、いつでも相談できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備点検業者とスプリンクラー等の点検、通報、避難訓練、消火訓練を業者、職員、利用者と一緒にしている(年2回)。非常食や石油ストーブ、発電機、等も準備している。きらく苑は馬場地区でも海拔14mですが、地域住民の方も避難できるように、防災グッズや水を多めに備蓄してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室になっており、利用者様のプライバシーを守っている。職員は必ず、名前をさんずけで呼び、あだ名では呼ばない。必ず丁寧語を使用するところから研修を行っている。一人ひとりに人格や人としての尊重をする事を方針としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のおやつはドリンクメニューからその方を選んでもらい、提供している。また、入浴や、起床の時間もきらく苑では作らず、行きたい場所や、やりたい事をして頂き、少しでも自己決定ができる様にしている。その人らしく生きて頂こうと支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事、トイレ、就寝の時間は決まっておらず、お一人お一人に合わせ、またはこちらからお尋ねしたりし、生活して頂いている。外出希望がある場合は、その都度日程表に組むなどし、外出機会を持って頂けるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の衣替えは職員と一緒にいき、ご本人様の希望に合わせて、なじみの美容院などにもカットやパーマをかけに出かけている。ご自宅に衣類を取りに外出されることもある。季節ごとに衣類を買いに出かけたり、日々の買い物でもいつでも衣類や化粧品やボディクリーム等買いに出かけられる環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みは会話の中でお聞きしたり、ご家族に伺って聞いている。日ごろの調理を利用者様と行き、好きなものを食べて頂いている。朝食はご飯かパンか選んで頂けるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録に食事量や水分量を記入し、職員が把握できるようにしている。食事量や水分量が少ない方には、栄養補助食品や水分ゼリー等摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日三回毎食後に口腔ケアを行い、できる方はご自身で、出来ない方は介助をさせていただいている。必要時には歯科受診も行い、口腔衛生につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、利用者様の排泄状況を把握している。日中は布パンツで過ごせる方は過ごして頂いており、必要な方には声かけを行いトイレにご案内している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでいただき、午前・午後に体操を行っている。必要な方は排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めておらず、毎日入浴したい方は毎日入浴していただいている。夕食後にも入浴時間をもうけ、ご本人様の希望にあわせた入浴がおこなえるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方が眠たくなったら眠って頂き、眠前薬もほぼ飲んでいません。寝具や枕はご自宅で使っているものを持って来て頂き、少しでも落ち着ける雰囲気作りを行っています。また、眠れない時は無理強いはせず、飲み物を飲んで頂いたり、落ち着ける環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新薬や薬の変更があった場合は必ず引継ぎノートと朝礼にて、職員全員に周知してもらっています。お一人お一人の服薬内容は把握できるように、事務所に薬と一緒に保管し、いつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを活用し、家事を通して利用者様に役割を持って頂いている。利用者様個人個人で嗜好品も購入して頂くなどの支援も行っている。また、毎日の買い物や外食や温泉等、外出も高いQOLの向上を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より外出に行きたいと申される方はその場に行きたくて頂く。ご自分で言えない方はこちらから提案させていただいたり、ご家族に尋ねたりし、思い出がある場所や、ご自宅、お友達の家に遊びに行ったりするように支援している。ポーリングなど、車椅子の方でも行ける様、お店の方に協力して頂き、外出できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお小遣いを管理されている方がおり、必要時に使用していただけるようにしている。また、買い物時にはお財布をお渡しし、職員の見守りで支払いをしていただいたり、個人の希望に合わせて支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯をもち、自由に大切な方との電話の時間を楽しまれている方がいる。苑の電話も希望がある場合は、自由に使用していただけるようにしている。季節の挨拶等、ご家族や知人の方に便りを書いていたき、交流が途切れないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室・フロアにはエアコンがあり、快適な温度調節を心掛けている。フロアには壁画や、写真、飾りをし季節を感じていただけるようにしている。また、夜にはダウンライトにする等、落ち着いた雰囲気作りに努めている。年末にはお餅つきも行い、楽しんでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士、居室で一緒に過ごされ、テレビをご覧になられたり、時にはお茶を飲まれたり、和やかな時間を過ごされている。お一人で過ごされたい時には、居室にご案内し、お一人お一人の時間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望される方には居室にテレビや、植物を置かれている。めだかや金魚等飼育されている方もいる。ご家族の位牌を置かれている方もおり、ご本人様のこれまでの生活習慣を継続できるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様との会話や支援をさせていただく事で、その方のできる事、したい事などを把握し、調理が好きな方には調理をしていたり、その方の望む生活に近づくように支援している。		